

# 令和5年度小平市立小平第一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

全国平均と比べ、0、4ポイント低く、東京都で比べても1ポイント近く平均正答数が低い。特に、書くことに関する問題の正答率が、30パーセントと非常に低い。また、全国・東京都と比べ標準偏差が3.6ポイントと高く、学力差が生じていることもわかる。

#### 課題

章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける正答率が、全国と比べ15ポイントと極端に低い。また、言葉の特徴や使い方に関する事項の問題で、日常よく使われる敬語を理解していなく、正答率が50パーセントに満たなかった。

### 学校で取り組む具体的な改善策

複数の資料から必要な情報を取り出す力を高めるために、キーワードに着目、キーセンテンスに波線を引くなどメモを残すなどスキミングの学習を国語科や社会科で取り入れていく。また、日常の言葉遣い・敬語の向上を図るために、語彙力を高める活動を増やす。具体的には、わからない熟語・言葉をそのままにせず、調べる・例文として用いる・使うの作業を授業内に取り入れていく。

### 【算数】

#### 状況の分析

正答率は全校平均とほぼ同じ状況である。しかし、東京都の平均正答率より5ポイントほど低い。知識・技能、思考・判断・表現の問題ともに全国平均とほぼ同じであるが、問題形式の記述は特に低く、正答率が50パーセントに満たない。

#### 課題

「図形」の領域において、正三角形の意味や性質の問題、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断する問題の正答率が20パーセントと極端に低い。また、「変化と関係」の領域にある、百分率の理解が不十分である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

「図形」の領域では、図形を構成する要素などに着目してとらえられるように、互いの考えを伝え合う場を多く設け、筋道を立てて説明するなど、少人数指導によるきめ細かい指導を継続していく。また、国語科と同様に、標準偏差が大きいと、基礎基本が定着していない児童も複数いる。そこで、授業始め5分間に復習タイムを設ける、宿題で4年生までの四則計算を取り入れるなど既習事項の定着を図る。

## 【質問紙】

## 状況の分析

## 課題

学校の授業以外での家庭学習の時間が全国平均と比べ、非常に低い。特に土日に至っては、50パーセントに近い児童が1時間未満という結果となった。学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じる児童が全国と比べ10パーセント以上高いことがわかった。

自己肯定感が低い児童が多く、教科に対しての意欲や有用感を感じていない児童が多い。特に、認めてもらいたいと感じる児童が多いので、加点的な指導を意識していく。また、学習に対する姿勢や家庭学習の習慣が付いていない児童が多く、中学進学を意識付け、自らすすんで学ぶ姿勢を養っていく必要がある。

## 学校で取り組む具体的な改善策

はじめに家庭学習の必要性和学習意欲を高めるために、学習への興味関心及び苦手な内容についての実態を把握していく。次に現在の児童の良いところを発見し、加点的な指導を心がけ、自己評価や自己認知を高める。また中学進学に向けて、総合の時間を活用し、キャリア教育を通じて、勤労観・職業観を育成するとともに、学びの大切さや学習方法等を保護者会にて説明していく。

授業においては、自己肯定感や自信を高めるため、「わかった、楽しい」を認識できるような授業計画を展開していく。具体的には、児童主体となる学級会を多く取り入れ、児童同士の認め合う機会を設ける。また、多数決で決めるのではなく、マイノリティの意見をピックアップするなどし、自分も他者の役に立っているという達成感や自己有用感を高めるきっかけとしていく。